

☆ 世 界

綿 花 2016/17 年、イールド改善で綿花生産増加

国際綿花諮問委員会 (ICAC) によると、2015/16 年の世界の綿花生産は 17%減の 2,170 万トで、2003/04 年以来最も少ない量となった。栽培時期に世界の綿花価格が低下したことにより、作付面積は 9%減の 3,110 万畝、世界の平均イールドは 9%減の 699kg/畝となった。2016/17 年は、作付面積が 1%減の 3,100 万畝と予想される一方で、平均イールドは 5%増の 735kg/畝となる見通しで、それにより生産が 5%増の 2,300 万トとなると見込まれる。

・インド: 作付面積は 1%増の 1,200 万畝、生産は 8%増の 630 万トと予想される。害虫被害の懸念は依然としてあるものの、モンスーン気候が回復すれば、イールドが 6%増の 521kg/畝となる可能性もある。

・中国: 生産コストの上昇や政府の支援削減により、作付面積は 10%減の 310 万畝、生産は 10%減の 470 万トと予想される。

・米国: 2015/16 年は、綿花価格の魅力がなくなったことや、過剰水分の土壌に栽培できなかったエリアがあったことにより、作付面積は 14%減の 330 万畝となったが、2016/17 年は、作付面積が 5%増の 340 万畝、生産が 14%増の 320 万トとなる見込み。

・パキスタン: 2015/16 年は、害虫被害により平均イールドが 32%減の 528kg/畝、生産も 150 万トと落ち込んだが、2016/17 年は、対策がとられれば部分的な回復が見込まれ、25%増の 662kg/畝となる予想。そのため、農家が主要競合作物の栽培へ転換することにより、作付面積は 5%減の 270 万畝となるものの、生産は 19%増の 180 万トが予想される。

低価格な化合繊との競合激化もあり、2016/17 年の世界の綿花消費は、2,360 万トと横ばいが見込まれる。中国の消費は 5%減の 680 万トとなる見通しだが、ベトナムは 11%増の 120 万ト、バングラデシュは 10%増の 120 万トと増加が見込まれる。また、中国が 2015/16 年に綿糸の輸入を減らしたにも関わらず、インドとパキスタンの消費は、それぞれ 3%増の 540 万トと 1%増の 220 万トで回復が予想される。

綿花消費が横ばいで推移するものの、2016/17 年の世界の綿花貿易量は 1%増の 740 万トとなる見込み。中国政府が引き続き備蓄綿花の国内向け放出を行い、輸入に制限をかけるため、中国の輸入は 8%減の 94 万 7,000 トと予想される。しかし、中国以外の国の合計は、3%増の 650 万トとなる見通し。米国は、輸出可能量の拡大により輸出が 18%増の 230 万トと予想される。

消費が生産を93万トンを上回るため、2016/17年度の世界の期末在庫は5%減の1,946万トンになると見られる。中国以外は、在庫消費比率は昨シーズン同様の約36%となる見込みだが、期末在庫は3%増の870万トンと予想される。

世界の綿花需給見通し

(100万トン)

	2014/15	2015/16	2016/17
生産	26.12	21.74	22.73
消費	24.28	23.65	23.66
輸入	7.60	7.34	7.44
輸出	7.64	7.34	7.44
期末在庫	22.22	20.38	19.66
価格*	71	70*	72*

*Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。